

シェーナウ電力会社制作の受賞者の活動紹介映像の日本語要約

佐藤彌右衛門さん（62歳）は福島第一原発事故後、既存の電力会社にかわるエネルギーづくりにむけて、新しい投資家と発電所に適した土地を探してきました。

佐藤さん：「こちらに私達の最初の1MWの太陽光発電所が建設されています」。

佐藤さんは1年程前に「会津電力株式会社」という福島で最初の市民発電会社を設立しました。彼の故郷の会津だけではなく福島県全体を大手の電力会社の独占から自立させることが目標です。最初の発電所は会社創業の数週間後に早くも送電網につながりました。佐藤さんは24の太陽光発電所の設置を非常に早く行いました。さらに、佐藤さんはバイオマス発電による、よりクリーンな電力のために今までほとんど利用されてこなかった山林の整備、保全を行いたいと考えています。また、会津電力は県内にある古く、使われていない水力発電所を獲得し、新たに活用することを次のステップとしています。佐藤さんは、将来的には、大手の電力会社から福島県にあるすべての大規模水力発電所の所有権を取り戻し、原子力発電5基に相当する電力供給を実現したいと考えています。

現在、会津電力は小さな会社で社員も少ないですが、佐藤さんと会津電力の社員は地域の中で広いネットワークを持っています。

佐藤さん：「地域の人々から「自分の土地を太陽光発電に使っていい」、「水力発電を始めよう！」などたくさんの申し出をいただきます。彼らは協同の精神を強く持っています。私達の事業は非常に速いスピードで進んでいます。」

佐藤さんは酒造業という本職に携わる時間が少なくなりましたが、彼によると地域で自然エネルギー事業を行うこの新しい仕事は、224年前から続いてきた彼の会社の酒造りや、地域経済のためにできる最も大切な仕事です。佐藤さんは、電力革命を通じて、福島豊かな資源と、安全でクリーンでありながら安い電力によって新しい企業を誘致したいと考えています。原発事故を経て、若者に希望のある将来を作るためにはこれしかないと考えているからです。